

## オースティン・ピー州立大学 (アメリカ)

国際文化交流学部国際文化交流学科 直江美怜

留学期間：2024年1月～2024年12月

私はオースティン・ピー州立大学に前期後期で約半年留学していました。留学を終えて良かったと思っていることは、自分の成長を自分で感じられる環境に身を置くことができたという点です。アメリカに渡ってすぐ空港で乗る予定だった飛行機が遅延するというトラブルがありました。飛行機が遅延しているということを掲示板で知り、私は空港のスタッフに対処法について質問しなければならないという状況になりました。初めて一人で14時間のフライトに乗り疲弊している中、ほとんど日本人のいない空港で、私は自分で次の飛行機に乗るための手続きやチケットを入手する必要がありました。翻訳ツールを使いながらとても広い空港の中を彷徨ってとても心細く、半ば泣きそうになりながら次の飛行機を探し出しなんとか搭乗することができました。大学に着いてからは、先生や友達の話している内容がほとんど分からず、聞くことに精一杯で自分のことはあまり話すことができませんでした。毎日異国での生活に疲れきってしまい、あまりイベントにも参加できず英語を話すという機会はあまりなかったように思います。日本にいったん帰国して、日本の友達や家族と話して、異国で授業を受け生活しているそれだけで充分誇れることだと言ってもらい、自信がつき再びアメリカに渡りました。後期は一度授業や生活を経験しているからか、前期よりもすらすらと英語が聞き取れるようになり、英語を聞きながらメモを取ることも容易になりました。友達との会話も弾むようになり、前よりも英語ができているという自分の成長を、毎日ひしひしと感じることができました。このあたりから、私の留学生活はとても楽しいものになってきたと思います。そして帰国するために空港に向かい、その手続きを済ませると小さなトラブルが起きました。私はこの時迷わず周りのスタッフに質問しに行き、そのトラブルは簡単に解決しました。この時アメリカに来たばかりのところを思い出しました。しかし、今の私は付近の人に話しかけることも英語を使うことも抵抗がなくなり、会話することもできるようになっていました。日本で大学生活をしているだけでは、ここまで英語を伸ばすことはできなかつただろうと思いますし、英語の成長を日常生活で感じることもできなかつたと思います。留学をすることで日常の中の英語を取り込むことができ、英語へのモチベーションも高まったこのことが、私が留学した中で一番成長したと思う点です。



キャンパス内 (晴天)



サンクスギビングのディナー